

【女子ラグビー選手キャリア調査アンケート】

アンケート集計報告

関東ラグビーフットボール協会
女子委員会



目次

■ アンケート実施概要

■ 女子ラグビー選手キャリア調査アンケート結果

■ 今後のアクションプラン



アンケート実施概要

■目的

現在活動している女子ラグビー選手の現状を調査・評価し、今後の女子ラグビーのより良い環境づくりや選手に対する支援策などを検討するための基礎的知見を得ること

■期間

令和3年6月28日～7月10日

■アンケート方法

関東ラグビーフットボール協会に所属している各都道府県協会に対してアンケートの依頼をし、Googleフォームで実施・集計
ミニラグビーの選手などで質問の意図がわからないなどある場合は保護者の方と回答するように明記しました。

■回答数 465件



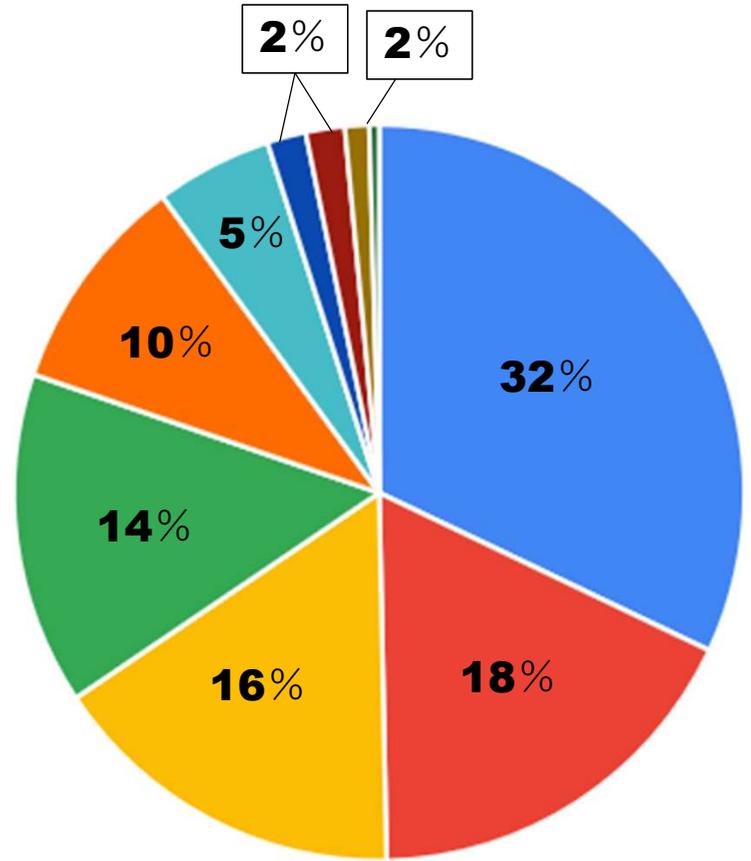
アンケート内容

- ①年齢
- ②現在の居住地（都道府県）
- ③現在の所属
- ④1週間における活動頻度
- ⑤競技歴（年単位で回答）
- ⑥ポジション
- ⑦現在のチームでの状況
- ⑧過去に出場した試合
- ⑨現在行っている活動
- ⑩希望している競技活動
- ⑪やりたいポジション
- ⑫競技に対する目標
- ⑬ラグビーを始めた理由
- ⑭ラグビーをプレーする理由
- ⑮ラグビーをやめようと思ったことがあるか
- ⑯ラグビーをやめようと思った理由
- ⑰競技生活引退のタイミング
- ⑱他チームへ移籍しようと思ったことがあるか
- ⑲他チームへの移籍を考えた理由
- ⑳どのように環境が変わっていくとよりよくなると思いますか？（自由回答）



回答者属性

1：年齢（歳）



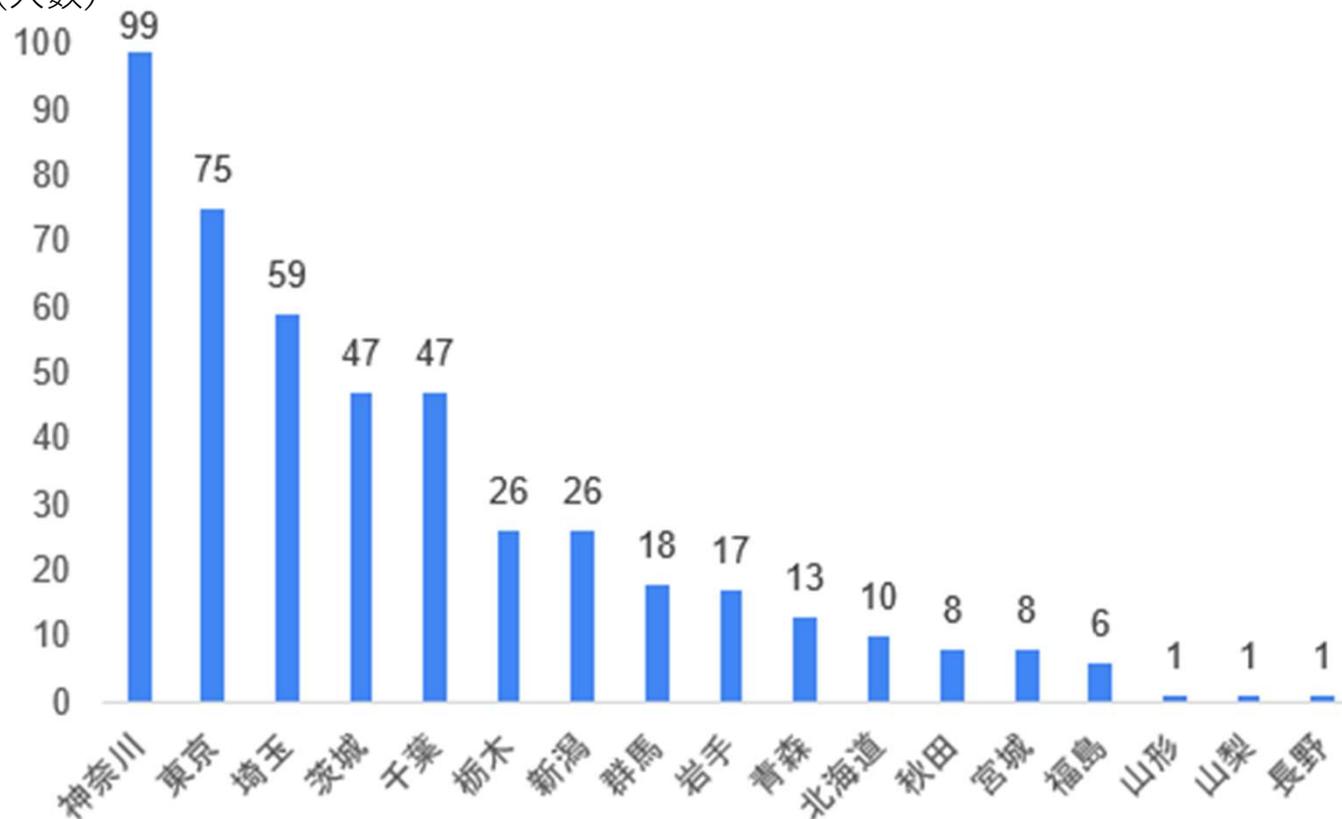
- 9歳～12歳
- 13歳～15歳
- 16歳～28歳
- 19歳～22歳
- 23歳～29歳
- 30歳～39歳
- 40歳～49歳
- 不明

- 年齢の分け方は、ミニラグビー競技規則にてU8からカテゴリー分けしていることから分別し、中学・高校（3年毎）・大学（4年間）のライフサイクルを考慮し分類。
- 後述するが、ラグビースクール所属選手の回答数が多かったため、8歳から15歳までの回答者がほぼ半数を占めた。
- 30代以上の回答数が20件と非常に少ない結果となった。関東ラグビー協会個人登録件数上でも38人と少ない。



回答者属性

2：居住都道県 (人数)

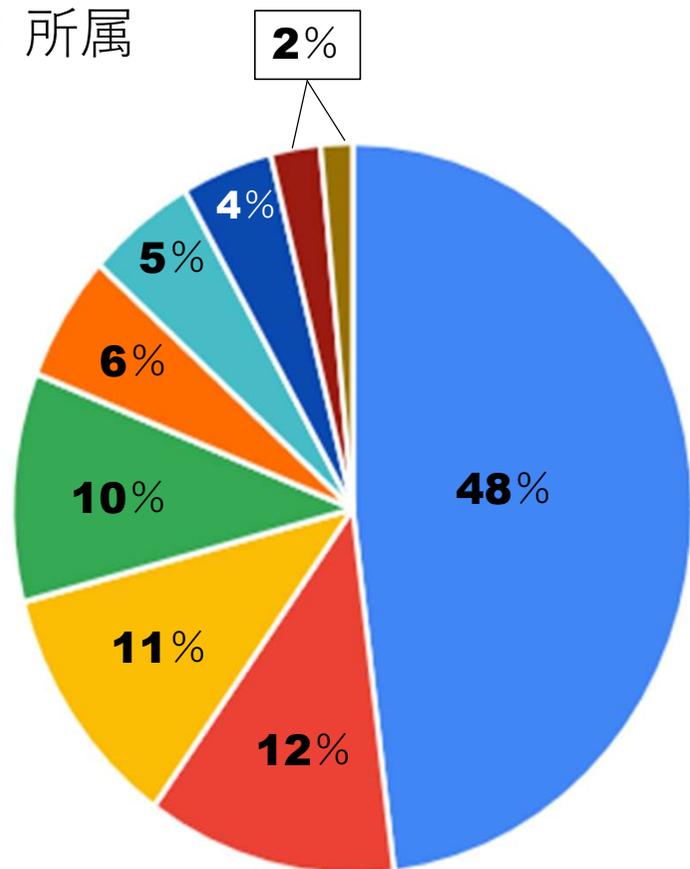


- 関東の中でも競技者の多い4都県が回答者も多いという結果になった。回答数の少ない県でも本件だけではなく、様々な情報が届けられるような仕組み作りが必要であると思慮する。



回答者属性

3：所属



■他設問にて年齢の低い方々の回答者が多かったと記載した事もあり、こちらも他設問と同様にラグビースクール所属選手の割合が多くを占めた。

学生卒業後に社会人でラグビーをしている選手は1割弱に留まったことが、30歳以上の選手が少ない事と比例していることが考えられる。

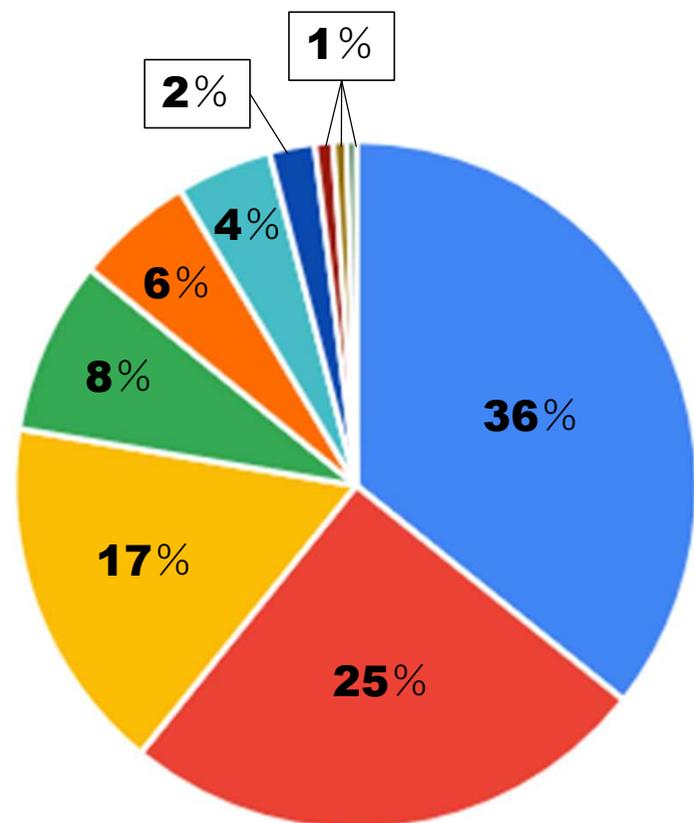
■その他の回答として県や市で主催しているチームや練習会などに参加するという回答があった

- ラグビースクール所属
- 高校部活動所属
- 大学部活動所属
- 社会人クラブチーム所属
- 大学に在学し、社会人クラブチームに所属
- 中学に在学し、クラブチームに所属
- 中学部活動所属
- その他
- 高校に在学し、クラブチームに所属



回答者属性

4：競技歴

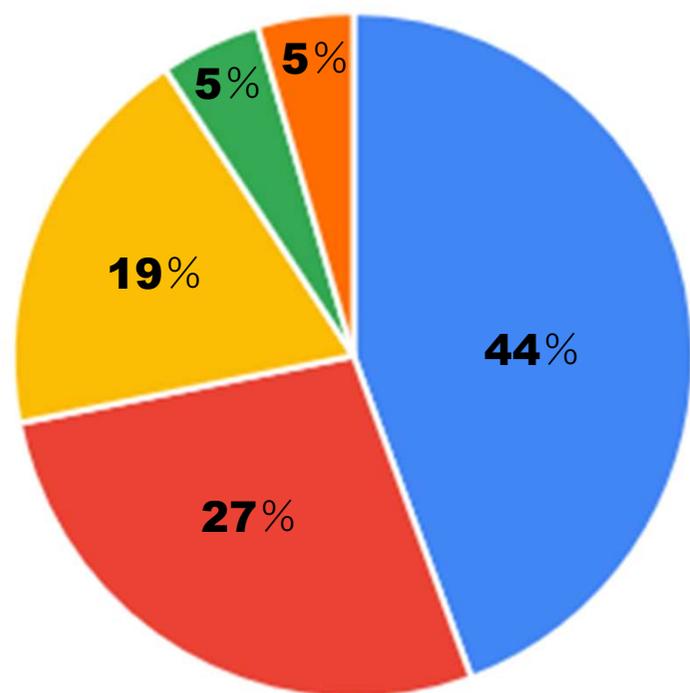


■他設問にてラグビースクールの回答者が多かったと記載した事もあり、こちらも前設問と同様に6年未満の競技歴の選手の割合が半数を超えた。10年以上の競技歴がある選手は全体の2割程度に留まった。



現状に関して

5：希望している競技活動について



●両方 ●7人制 ●15人制

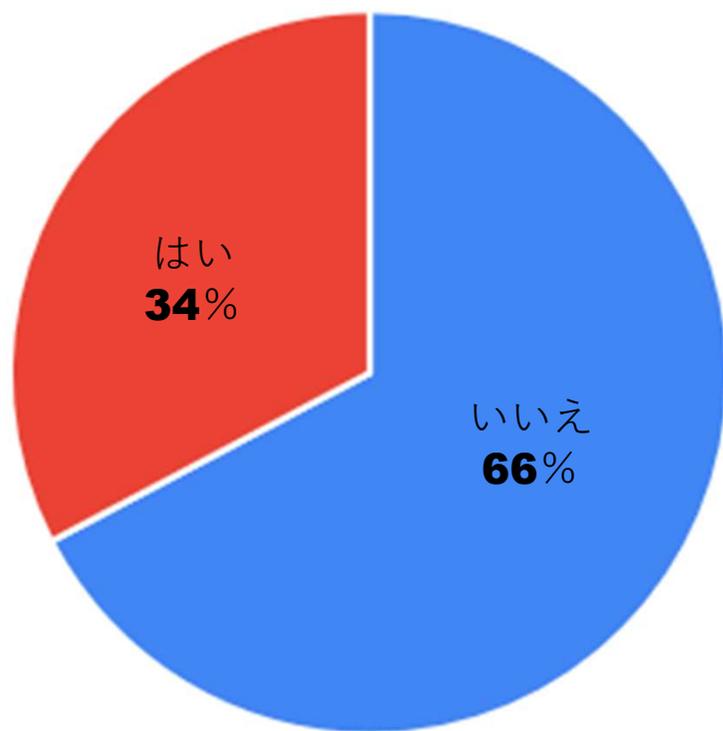
●その他 ●未定

- 15人制と7人制両方プレーをしたいという回答が4割を超えた。個別にみると7人制をプレーしたいという回答が15人制をプレーしたいという数を若干上回った。7人制がオリンピック種目であり、国内でも太陽生命シリーズがあり試合機会が多いことから回答が多くなったものと思慮する。
- その他の意見には12人制やタグラグビーを続けるなどの回答、マネージャーをやりたいなどの回答もあった。



現状に関して

6：現在のポジションとは違うポジションをやりたいと考えている

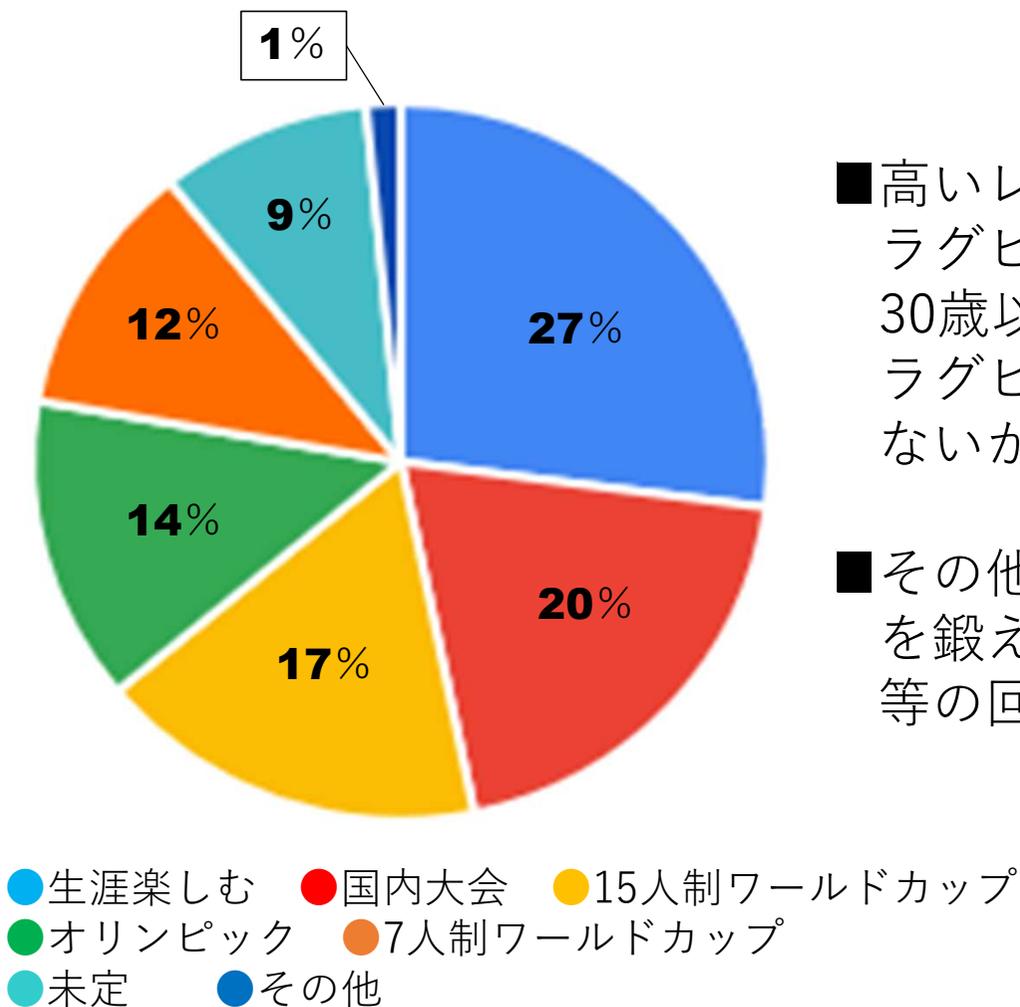


■3割を超える選手が現在のポジションとは違うポジションをやりたいと回答。女子は競技人口が少ないため、自分がやりたいポジションをできていない可能性があると思慮する。選手は自分から希望するポジションがあると主張する必要があり、チームはそのような主張を引き出すようなコミュニケーションが必要と思慮する。



現状に関して

7：競技に対する目標（複数回答あり）



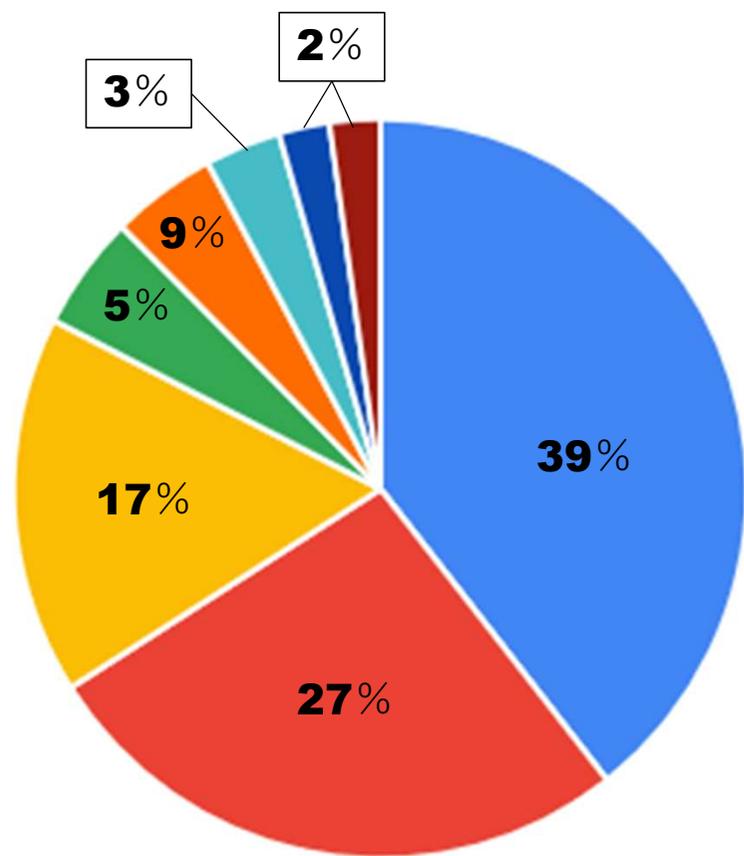
■高いレベルへの目標がある一方で、生涯にわたってラグビーを楽しむという割合が3割程度に留まった。30歳以上の選手が少ないのは、生涯スポーツとしてラグビーを楽しむという先行例が少ないからではないかと思慮する

■その他の回答では、楽しんでプレーする・身体と心を鍛えたい・ラグビー文化の成熟の一助となること等の回答あり



現状に関して

8：ラグビーを始めた理由（複数回答あり）



■兄弟（姉妹）・親の薦めなど、親族の関連が6割を超えた。授業や体験会・W杯を見てなどのきっかけは少数であった。様々な年代に対し、よりラグビーに触れる機会多く提供をして、きっかけ作りをしていく必要があると思慮する。

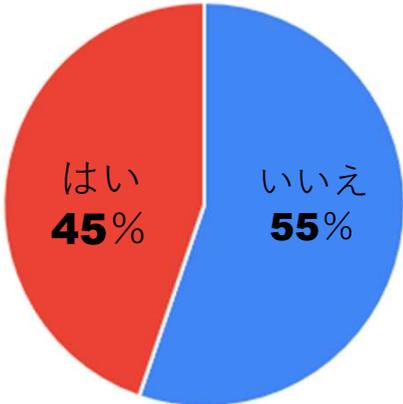
■その他の回答では、オリンピックに出たかった、新しいスポーツを始めたかった、タックルを試してみたかった等の回答あり

- 兄弟（姉妹）がやっていた
- 親の薦め
- コーチ・先生・友達に誘われて
- 好きな選手がいたり、好きなチームがあったから
- 特になし
- その他
- 授業や体験で楽しかった
- W杯やオリンピックを見て

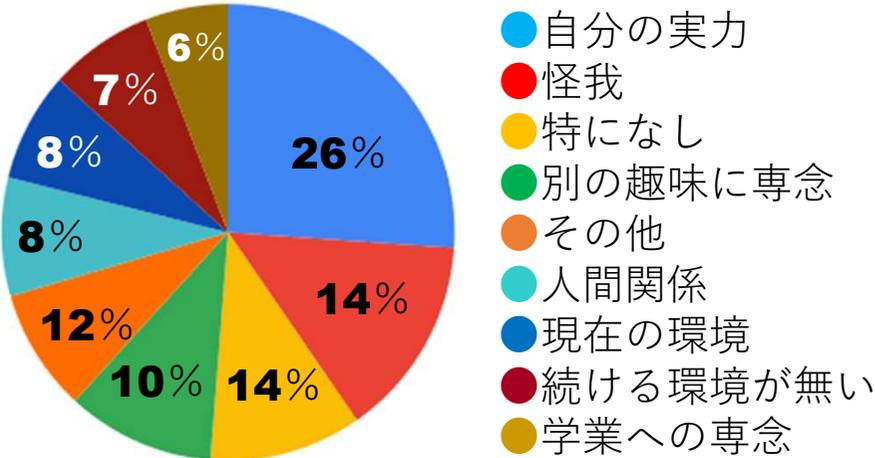


現状に関して

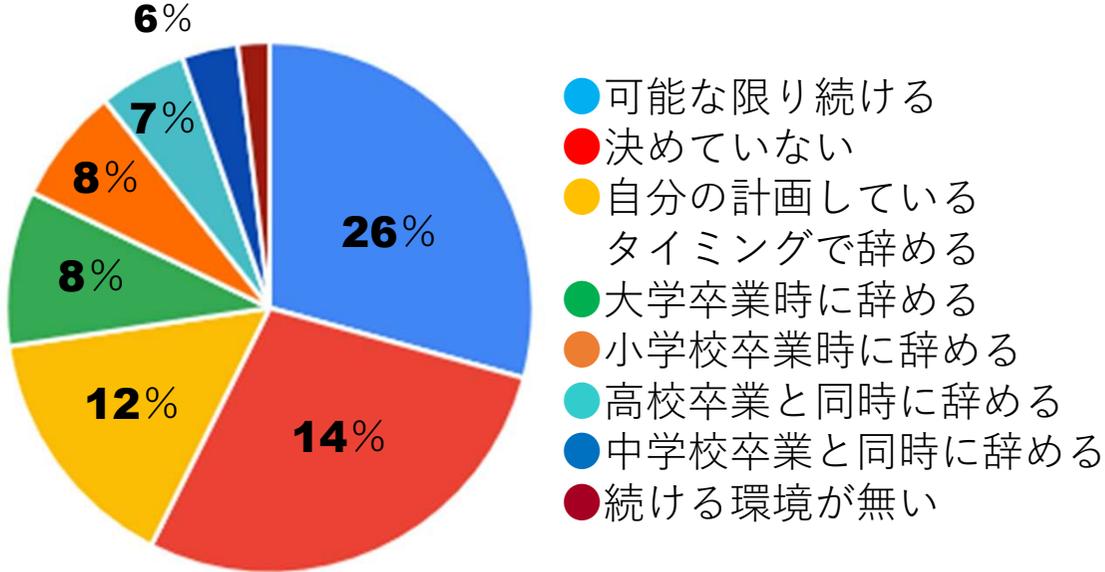
8：今までにラグビーをやめようと思ったことがありますか？



9：ラグビーをやめようと思った理由
(8で、はいと答えた人のみ)



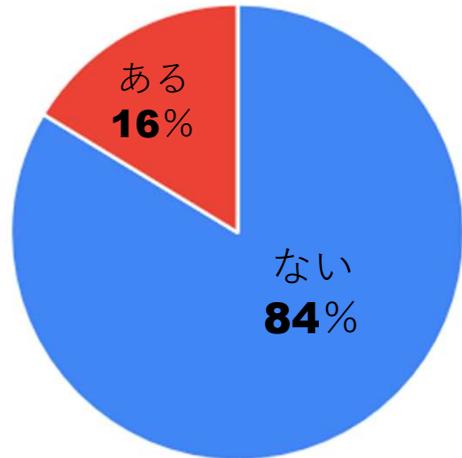
10：競技生活引退のタイミングについて



■4割以上の選手がラグビーを辞めたいと思ったことがあると回答。その理由は多岐に渡るので、その選手のラグビー以外の人生を尊重しつつ、ラグビーから離れないような環境づくりが必要であると思慮する。また続ける環境が無く学校卒業のタイミングで競技から離れる選手に対しての競技継続可能な環境整備が必要であると思慮する。

現状に関して

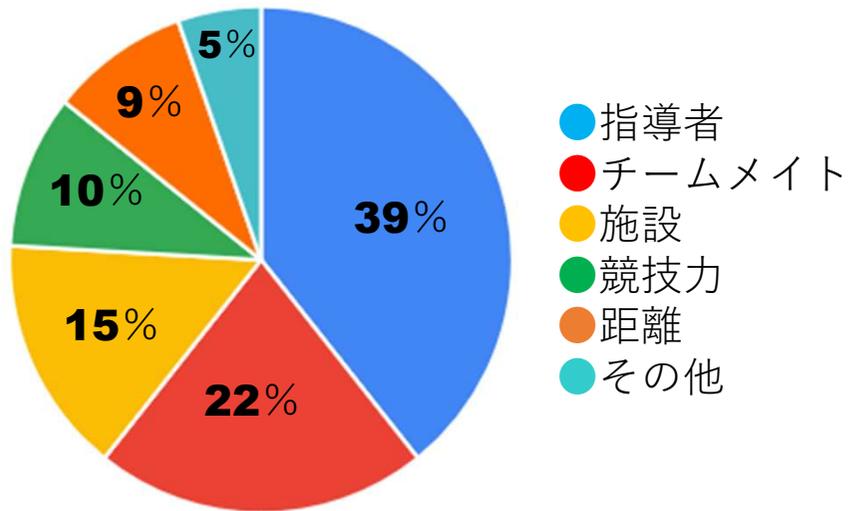
10：他のチームへ移籍しようと思ったことはありますか？



■ 2割程度の選手が少なからず移籍を考えたことがあるとのことだった。

理由は指導者・チームメイトなど人間関係の理由が6割近くを占めた。続いて自分にとってより良いチームや施設を移籍を考える理由として挙げる声が多かった。

11：他チームへの移籍を考えた理由
(10で、はいと答えた人のみ)



■ 移籍が選手と双方のチームにとって良いものであるために、チームと選手が普段からコミュニケーションを取ったり、なにか相談できる第3者の存在があると、より深刻な事態になる前に問題を解決できるものと思慮する。

現状に関して

12：どのように環境が変わっていくとよりよくなると思いますか？（自由記述）

【回答数多数】

- ・ 競技人口が増える
- ・ 選手同士の交流・試合が増える
- ・ 続けられる環境（チームなど）

【他回答の一部】

- ・ メディア露出等で認知を上げる
- ・ 選手同士の交流・試合が増える
- ・ 日本代表の活躍
- ・ 可愛いウェア
- ・ カジュアルに参加できるチーム
- ・ 男子の中でやらないでよい環境etc



アンケートから得た現状の課題

課題①：選手・チームの交流や試合数の増加

課題②：ラグビーを続けられる環境づくり

課題③：競技人口の増加



今後のアクションプラン

課題①：選手・チームの交流や試合数の増加

	一般（大学以上）	高校生	中学	ジュニア・ミニ
4月				
5月	太陽生命7's			
6月	太陽生命7's	関東大会公開競技	東日本ジュニア	
7月	全国大学生大会		ジャンボリー	ジャンボリー セイナン/ラグビー マガジンカップ
8月	国体予選	コベルコカップ		ジャンボリー
9月	本国体	U18セブンズ	太陽生命カップ	
10月				
11月	関東15人制	関東女子大会		ヒーローズカップ 予選
12月	関東15人制	花園U18		
1月	全国女子大会			
2月	全国女子大会			ヒーローズカップ
3月		ルーヴカップ	東日本U15	

中学・ジュニア・ミニの
試合数が少ない
→普及育成部門とリンクし増加
を図る。
各都道府県協会レベルでの
試合や交流機会を増やす

設定目標

一般以外のカテゴリー

1大会、1交流会増加

※支部協会主催も含め

今年度中に達成したい目標



今後のアクションプラン

課題②：ラグビーを続けられる環境づくり

- 現状で続けられる環境は多少なりともあるので、
取りたい情報を取れるようにホームページなどの整理を行う
→HP更新に関しては外部委託の為、期限に関してこちらでコントロールできない部分もあるが、できる限り早急に行い終わり次第情報公開する

- チームに所属していなくても、ラグビーをやりたい女性が気軽に参加できる環境を作る。
→※達成目標未定

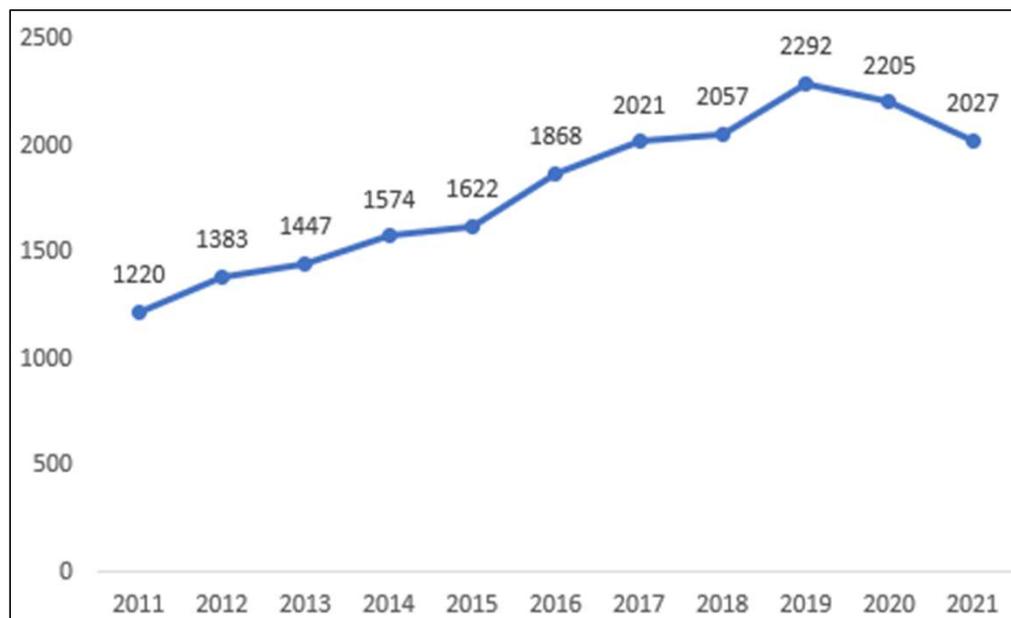
The screenshot shows the website for the Japan East Rugby Football Union (JERFU). The header includes the JERFU logo and name, a search bar, and navigation links for '概要・申請', '日程・結果', 'チケット', '競技場案内', and '観戦ルール'. The main navigation bar lists categories: HOME, ニュース, 大学, 社会人, クラブ, 高校, 中学校, スクール・ジュニアクラブ, 女子, セブンス, and 国体・その他大会. The current page is for the '女子' (Women's) section for the 2020-2021 season. The main content area is titled 'チーム紹介' (Team Introduction) and includes a description: '女子チームとは満15歳以上の女子により構成されたチームをいう。' (The women's team is a team composed of women aged 15 and over). Below this, it lists teams by prefecture: 北海道 (Hokkaido) with '北海道バーバリアンズディアナ' and '札幌ESTRELA'; 青森県 (Aomori) with '八戸レディーズRFT'; 岩手県 (Iwate) with '奥州アテルイ・プロッサムス' and '北上シャイニングブレイズ'; and 宮城県 (Miyagi) with no teams listed.

今後のアクションプラン

課題③：競技人口の増加

図 ラグビーファミリーに選手として登録されている女子選手数の推移

※女子は2重登録が可能なので、主チームで選手として登録されている数のみを集計



■ 2015年のラグビーワールドカップ、2016年のリオオリンピック、2019年のラグビーワールドカップ日本開催などのビッグイベントを機に緩やかに競技人口は上昇傾向にある



今後のアクションプラン

課題③：競技人口の増加

※2011年度ラグビーファミリー

主チーム登録選手数

ラグビースクール=736名

ジュニアクラブ=62名

タグラグビー=0名

中学生=2名

高校生=68名

高専=1名

大学生=32名

学生クラブ=13名

社会人=17名

クラブチーム=22名

女子チーム=254名

合計=1,207名

※2021年度7月現在での
ラグビーファミリー主チーム登録選手数

ラグビースクール=1192名

ジュニアクラブ=53名

タグラグビー=5名

中学生=65名

高校生=199名

高専=1名

大学生=50名

学生クラブ=3名

社会人=11名

クラブチーム=3名

女子チーム=436名

合計=2,027名

各カテゴリー増えているが社会人が増えていない
※ジュニアクラブの減少はスクールに流れていると推測
2021年女子カテゴリーでも30歳以上の選手は29名のみ



チャンピオンシップでの競技生活を終えた選手が
カジュアルに競技生活できる受け皿が必要
課題②とリンク

まとめ

関東ラグビー協会に登録のある465人に現在活動している現状に関するアンケートを取ったところ、下記の取り組むべき課題が明確になった。

- ①選手・チームの交流や試合数の増加
- ②ラグビーを続けられる環境づくり
- ③競技人口の増加

以上3つの課題に対して関東ラグビー協会女子委員会は下記アクションプランを制定

- ①支部協会などに協力を仰ぎ一般以外のカテゴリーで1大会、1交流会ずつの増加を図る
一般の部ではチャンピオンシップ以外の試合・交流を増進させる
- ②ホームページなど発信できる情報を整理し、欲しい情報を取得しやすいようにする
また、情報を欲しい人に届けられるよう広報部門とリンクし発信を強化する
- ③カジュアルにラグビーを続けられるような受け皿や、若年層以外でも
新規にラグビーを始める際に気軽に参加できるチーム作りを促進し、
30歳以上のプレーヤーを100人以上にする。また全体の選手数を20%増加させる

以上の3点を3年以内に達成する

